

REIWA 詩人パーフェクト File

第2回 夢沢那智（无、もとこ）

渡辺八畳

起きて半畳寝て一畳、渡辺八畳ですどうもどうも。

どの業界も一定の人が同じ立ち位置に居続けるということはなく、常に新人が下から突き上げてきます。これは現代詩とて例外ではないです。

とはいえ、詩の業界が抱えている問題の一つとして新規参入のしにくさがあります。令和へと元号が変わった現在も新人は現れ続けており、その中には注目するに値する方もいらっしゃるものの、彼らを紹介するとして詩誌はあまりにもスペースが無く、そして反応が遅い！

そういうわけでして、2018 年度『詩と思想』現代詩の新鋭に選ばれ、令和元年に私家版で詩集を出した、まさに「令和詩人」である渡辺八畳自身が、これから台頭してくるであろうホープを独断と偏見で紹介していこうというのが、本企画の趣旨でございます。しばしお付き合いいただけたらありがたいことです。

～ ～ ～ ～ ～

一口に詩人と言えど、活動している場は多種多様です。『現代詩手帖』や『詩と思想』などの商業雑誌の常連である詩人、いわゆる詩誌と呼ばれる同人誌に作品を掲載している詩人、インターネット上で展開している詩人、ポエトリーリーディングとしてライブを繰り返している詩人……しかし、なにもどれか一つに絞る必要は無い。第 3 回である今回は紙媒体とインターネットの両輪で活動している夢沢那智（无）氏を紹介しますね。

神奈川県在住の氏は「夢沢那智」と「无」そして「もとこ」という三つの名を持っています。夢沢は主に紙媒体、後二つはインターネットでの筆名です。わかる人にはわかる例えをすれば前山田健一とギャグインみたいなやつです。夢沢那智名義の詩は『詩と思想』にもたびたび掲載されているので、聞き覚えがある方もいるでしょう。実は彼、南日本新聞の新春文芸にて詩と短歌のダブル一席取得を果たしました。ちなみに詩のほうの選者はあの三角みづ

紀です。これがね、今回取り上げることにしたきっかけなんですよ。短歌にも取り組んでいる詩人は少なくないが、両方にて結果を出している人は稀で、さらにそれがまったく同じタイミングでというのは史上初でしょう。

夢沢氏から許可をもらっていますので、まずは一席を取得した詩と短歌を引用しましょう。

初詣

賛同を歩く人たちが無言なのは
訪れたばかりの新しい年に
まだ戸惑っているからか
それとも無慈悲な繰り返しに飽きて
信じることを恐れはじめているのか
それでも皆、白い息を吐きながら
光を求めるように前へ進んでいく

(中略)

子どもたちは
まだ夢の中にいるだろう
朝になって目覚めても
彼らの夢は続くだろう
だから耳を切る寒さに耐えて
黙々と参道を歩き続けるのだ
まだ約束されていない日の出を
確実なものとするために

つづいて短歌です。

千年の記憶を刻む年輪にレコード針を落としてみたい

元旦の参道をゆく子供たちを淡々と表す詩、そして積み重ねられた時をレコードにしてその音を聞くというメルヘンな短歌、これらから受ける印象は柔和なものでしょう。それはたしかに夢沢氏の一つの側面でしょうが、逆を言えば一つでしかない。名前が複数あるように、夢沢氏の詩も非常に幅が広い。たとえば无名義でネット詩投稿サイト「[文学極道](#)」に投稿された詩「[のんちゃんの映画を観たんだ](#)」を提示します。

のんちゃんの映画を観たんだ
アニメの主演を演じてたんだ

日本が戦争をした頃の物語で
マンガが原作らしいんだ
のんちゃんは昔は本名だったけど
大人の事情で今はのんちゃんなんだ
(中略)
僕たちは満足して映画館を出たんだ
あまり、きれいではない空の下で
あまり、きれではない空気を
胸いっぱい吸い込んだ時に
いきなり
みんなのスマホが鳴り出したんだ
それは僕たちの時代の空襲警報
どこかの国のミサイルが発射されて
もうすぐ僕たちの街に落ちるらしいんだ

のんちゃんの映画で終わった戦争が
のんちゃんのいる現代に蘇ったんだ
僕たちは防空壕の代わりに
地下鉄の駅を目指して走り始めた
何人かはスマホで空を撮影している
そんなことをしていたら死んじゃうよ
バラバラになった君たちの死体を
あとから僕たちが撮影しちゃうよ

やわらかな口調ながらもその内容は棘がある。ここでの「のんちゃん」は旧名能年玲奈、現「のん」のことであり、映画とはズバリ 2016 年に公開され大ヒットとなった「この世界の片隅に」です。ちなみに夢沢氏はこの映画ならびに原作漫画の大ファンで、[増補版である「この世界の\(さらにいくつもの\)片隅に」の応援チームでもあります。](#)

新春文芸には新年らしい詩を投稿し、逆にネットではゴリッゴリの筋力にてハイコンテクストな作品を展開している。場を選べる能力が夢沢さんの強みですね。詩人はよく「賞に作風を合わせるのはよくない」と言いがちですが、んなぁことあなんですよ。だって賞ですから、獲ることこそが目的の場ですから。そこへ合致するようにチューニングするのは立派な技術です。

このコラムを書く前に私が行ったインタビューでも夢沢氏は新春文芸受賞作に関して「『新春文芸なのでおめでたいテーマで』『いかにもな現代詩風に』みたいな条件を頭に叩き込んで」「『无』でも『もとこ』でもない、『夢沢那智』っぽい詩」を書くことに遷延したと答え

てくれました。「初詣」がしとやかに詩を書いていく夢沢那智なら「のんちゃんの映画を観たんだ」はまさに、褒め言葉としてのオタクである无による詩です。

じゃあ「もとこ」はどういった詩なのかって思われる方もいるでしょう。実は「无」と「もとこ」で書かれる詩の方向性は変わりません。「もとこ」は夢沢氏がいわゆるネカマ、女性という設定のもと詩を展開するとどうなるかという試みのもとでの名義です。夢沢氏は以前より、詩の評価へ詩人の年齢や性別が影響してくることへ懐疑的で、それへ抗うためにあえて自身の性別と逆のものを演じたとか。実際、過去の文学極道では「[もとこさんの詩はいつも女性らしい視点からの詩で好きでした](#)」なんてコメントが寄せられていたりもします。相手の顔が見えない、文字ベースでの付き合いだからこその試みです

ところ変われば評価が変わる、さらには性別が変わっても評価が変わる、と、「評価」というものはたとえ文芸作品であっても絶対的なものではありません。そのことに意識しつつ、今日も家族でアニメを楽しんでいる夢沢氏は現代の詩人の多くが有せていない（が、絶対持っておくべき）感覚を保持した詩人だといえるでしょう。

～ ～ ～ ～ ～

以上、第3回目の REIWA 詩人パーフェクト File でした。夢沢氏は現在「文学極道」の運営です。そのため、同じネット詩サイト「[B-REVIEW](#)」を運営する私とは競合相手なんですよ。だけどそんなことにこだわらず日頃仲良くしていただいております、非常に感謝しています。

最後にちょっとだけ私事を。前号で宣伝した「詩絵両交」を共同で主催する画家・河野あさみとの二人展を3月15日から行います。場所は新宿歌舞伎町の「[BAR DOQUODOQU](#)」（毒々）。名前からも察せるとおり、エログロがテーマのバーです。ですので展示名も「殺させてくれたのに」。エログロな詩や絵またはインスタレーションの展示、ライブペインティング&ライティング、そして新詩集『非現実の人たちへ』の販売を行います。テーブルチャージは500円と、歌舞伎町にしては良心的。さらに土日月は朝7時から営業しているため、誰にとつての足を運びやすい環境でしょう。期間中は在廊（材バー？）も頻繁に行うようにする予定ですので、ぜひお越しください。

↓

展示詳細

↓



肢体が動かなくなったら口蓋を掴んでひたすりに犯しました

POST CARD

河野あさみ・渡辺八畳二人展
殺させてくれたのに

エログロをテーマにした詩と絵の展示

2020.3.15(日)～2020.3.29(日)
平日 19時～翌6時
土日月 7時～翌6時

BAR DOQUDOQU
〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-39-2
三幸ビルB館 4F
(ラーメンずんどう屋付近)

TEL 03-6273-8765
Twitter @BAR_DOQUDOQU



確かに、僕は笑いながら彼女たちを騙って
目玉をえぐって、空いた眼窩の内側を指でなぞって
倒れた背中を石で削って、華奢な背骨を露わにして
肢体が動かなくなったら口蓋を掴んでひたすりに犯しました
本当です
僕はやり遂げました
僕は殺人鬼になれたのです
彼女たちが僕を殺人鬼にさせてくれたのです

「殺させてくれたのに」

2020.3.15～2020.3.29

BAR DOQUDOQU

東京都新宿区歌舞伎町 2-39-2 三幸ビル B 館 4F

平日 19時～翌6時

土日月 7時～翌6時

TEL 03-6273-8765

Twitter [@BAR DOQUDOQU](https://twitter.com/BAR_DOQUDOQU)

公式サイト <https://doqudoqu.jimdofree.com/>

それじゃ、今回もありがとうございました～！